

発行/小諸市公民館
編集/館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
TEL 0267-23-8880
FAX 0267-25-2224

No.865

❖内容

表紙 どんど焼き

写真 上：谷地原区
下：糠地区

p. 16~17

第57回

小諸市児童生徒新年書初め展

p. 18

『ぼくとわたしの作品』
(水明小学校)

p. 19

『えんぴつリレー』
(紺屋町区 南澤咲子)

p. 20

『みんなの宝物』
(小諸市古文書調査室/
小諸高濱虚子記念館)

p. 21

『今支館・分館では』
(大久保分館)
『五行歌』
(こもろ五行歌の会) ほか



澄み切った綺麗な青空と純白の浅間山を背景に燃え上がる炎と煙、皆それぞれの願いを込めます。でも世界共通の願いがひとつ…『疫病退散』です。



みはらし交流館前の広場に竹でやぐらが生まれ、お正月のしめ飾り、だるまなどとともまゆ玉を焼きながら皆で今年一年の無病息災を願いました。



3月の声を聞くと待たれて
いた春の訪れを感じて心が弾
みます。しかし実際にはまだ
吹く風も冷たいです。暑さ寒
さも彼岸までとの諺ことわざもありま
す。梅や桜の蕾も膨らみ始め
やがて穏やかな日差しを浴び
て、きれいな花を咲かせてく
れるでしょう。

3月といえばひな祭り。ひ
な人形を飾り、桃の花、菱餅、
白酒等を供え女兒の成長や幸
福を願う行事です。元は身の
汚れや災いを紙で作った人形
に移して川に流して厄払いを
した「流し雛」の風習が起源
のようです。日本各地には個
性的な「郷土雛」、時事を反
映した「変わり雛」等もあり
ます。文化や風習は大事にし
ていきたいものですね。

また卒業、転勤、それに伴
う引越等々3月は別れの
季節でもあります。旅立つ側
見送る側、お互い立場は違
いますが、新しい出会いの日が
待っています。

編集委員 小山田 悦栄

第57回 小諸市児童生徒新年書初め展

新年への希望や決意を表現することにより、健全な精神の育成を進め、小諸の書芸文化の発展を目的に、本年も児童生徒新年書初め展を開催しました。開催日の2月4日(金)～6日(日)の3日間は厳格な感染防止対策を行い大勢の皆様にご鑑賞していただきました。今年は515点の応募があり、その作品の中から市長賞を始めとする特別賞に10点、特選に24点が選ばれました。

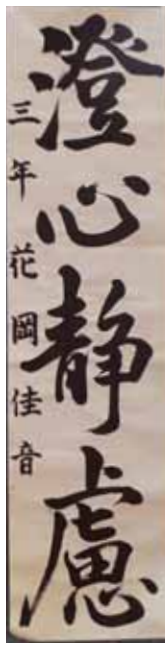
特別賞

※作品寸評 審査委員長 成沢臨舟先生

小諸市長賞

小諸東中学校

三年 花岡 佳音



重厚で紙面を圧する筆の動きに躍動感あり、市長賞に相応しい格調高い、良い作品である

小諸市議会議長賞

美南ガ丘小学校

六年 鎌田 桃華



冷静沈着な運筆、緊張感が実に心地好い、名前と共に明るく美しい品格の高い作品である

小諸市教育長賞

東小学校

五年 小林 優奈



紙面いっぱい、大きく大きな文字で形よく、書初めに相応しいスケールの大きな作品である

小諸市公民館長賞

芦原中学校

二年 伊藤 さくら



伸びやかな線、流れるような行意を見せ落ち着いた運筆、明るく安定感満ちた作品である



展示会の様子



特選

- | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|-------|--------|-------|---------|-------|------|--------|------|---------|-------|
| 美南ガ丘小学校 | 美南ガ丘小学校 | 美南ガ丘小学校 | 水明小学校 | 坂の上小学校 | 水明小学校 | 美南ガ丘小学校 | 野岸小学校 | 東小学校 | 坂の上小学校 | 東小学校 | 美南ガ丘小学校 | 野岸小学校 |
| 三年 | 三年 | 三年 | 三年 | 三年 | 四年 | 四年 | 四年 | 四年 | 四年 | 五年 | 五年 | 五年 |
| 大塚 | 柏木 | 神戸 | 高橋 | 桜井 | 塩川 | 谷沢 | 美津 | 飯島 | 岩崎 | 大池 | 瀬木 | 悠広 |
| のどか | 啓徳 | 花奈 | 言実 | 晴琉 | 悠有 | 咲和 | 莉乃 | 彩優 | ひかり | 悠広 | 悠広 | 悠広 |

小諸市文化協会会長賞

五年 新津 要
正月の朝

美南ガ丘小学校 五年 新津 要

筆遣いの巧みさ、行き届いた気配り、真面目な勉強ぶりが伺える、格調高い作品である

小諸市校長会長賞

一年 小林 颯介
将来の夢

小諸東中学校 一年 小林 颯介

線は細いが素直な線で、力まず形よく伸びやかに書いている、まとまりの良い作品である

小諸書芸連盟会長賞

六年 小山 千咲
将来の夢

水明小学校 六年 小山 千咲

心に沁みとおる、伸びやかな線で実力を見せ、全体構成が良く大きく見える良い作品である

小諸市青少年育成会連合会長賞

四年 柳澤 夢心
生きる力

東小学校 四年 柳澤 夢心

一点二画、伸びやかな線で丁寧に、一生懸命書いている姿が見える作品で、名前も良し

小諸市社会福祉協議会長賞

四年 瀬在 駿成
生きる力

野岸小学校 四年 瀬在 駿成

丁寧にして運筆の力強さが「生きる力」の文字の形をしっかりと捉え、名前も可、良い作品である

小諸商工会議所会頭賞

三年 金井 琉花
つよいき

美南ガ丘小学校 三年 金井 琉花

小3とは思えない温和な線と、端正な字形に心なごむ、初春の陽だまりの様な暖かい良い作品



審査会の様子



千曲小学校	五年	山浦	虎
東小学校	六年	北原	音
美南ガ丘小学校	六年	塩川	咲奈
坂の上小学校	六年	平川	友結
美南ガ丘小学校	六年	三木	真夢
野岸小学校	六年	渡邊	真緒
小諸東中学校	一年	尾芦	未喜
芦原中学校	一年	中本	那葵
小諸東中学校	二年	塩川	那奈
小諸東中学校	二年	柳沢	実俐
小諸東中学校	三年	甘利	瑞希
小諸東中学校	三年	下林	美咲

※【出品資格】市内に居住する児童生徒、市内の学校・書塾へ通学する児童生徒



水 明 小 学 校

※この作品は昨年書かれたものです。



『わたしとヘチマ』

4年1組 こばやし の あ 小林 希彩

図工で色をぬったり、形を作ったりしていると、どんな風にできあがるか楽しみでわくわくします。

今年の秋、ヘチマの絵をかきました。このヘチマは、理科の観察のために育てたものです。最初に見た時は、五百円玉くらいの芽でしたが、夏にはツタが伸び、小さなヘチマができました。夏休み明けには、とても大きな緑色のヘチマになって、その緑の中には、黄土色のようなポツポツしたもようがありました。わたしは、このもようを絵にかきたいと思いました。

ヘチマのもようを表げんするために、たくさんの色を使いました。光が当たっている所は明るい色、かげの所はこい色を使いました。緑や茶色、黄色など。まぜてたくさんの色を作りました。ポツポツの色は、黄土色をほんの少しまぜて、筆を置くようにぬりました。他にも、かみの毛やはだ、ツタの色、手や顔の輪かくが難しかったです。

この絵で、わたしの見たヘチマの感じが出せたと思います。これからも、わくわくしながら工作をしたり、絵をかいたりしたいです。



『青空のヘチマ』

4年2組 こばやし あい 小林 愛

わたしは、昔から絵をかくことが好きでした。わたしのあこがれは、同じ絵かき教室に通っている友だちです。今はもう教室をやめたけど、今でもその友だちにあこがれています。

わたしは、理科のじゅ業で、ヘチマを観察しました。ヘチマは、ぷにぷにしていて、けっこう重かったです。表面は、ぶつぶつとした感じでした。そんなヘチマを、図工でかくことになりました。

わたしがかく時に気をつけたことは、指をぼうみたくにしないように気をつけました。わたしは、指にたこがあるので、でこぼこした感じを表げんしました。

そして、わたしがこだわったことは、大きく表げんすることです。ヘチマが主役なので、自分の顔よりも大きくかきました。また、光が当たっている所と、当たっていない所で、明るさや暗さに気をつけました。難しかった所は、かみの毛です。まがっている所やくせつ毛になっている所が難しかったです。

これからも、自分で思ったことを表げんしたいです。





『小諸町の頃・幼き日の記憶』

紺屋町区 南澤 咲子

私は、小諸の町外れ、現在の
中松井市営住宅の上の農家
の生まれで、終戦の翌年小学
校に入学しました。敗戦で何
も無い時代から少しずつ経済
が上向いていく時代に子ども

時代を過ごしました。これは
その時代の私の思い出に残っ
ている小諸町の姿です。

子どもの頃の小諸には、ま
だ「商都小諸」が残っていて、
商店街には活気がありました。
その中でも夏の「祇園祭」と
11月の「えびす講」は近在の
人も多く来て賑やかでした。



戦後間もない頃の健速神輿（本町・大手の交差点付近）



昭和堂の店頭（昭和32年、相生町）

私は母の実
家が田町とい
うこともあつ
て、あの神輿
が石段を勢い
よく降りると
ころから見た
りしました。
そして小遣い
としてもらっ
た百円札を握
りしめ、たくさんの露店の中、
何を買おうか迷って歩き廻っ
た思い出があります。

8月12日のお花市には近在
の子ども達が蒲の
穂や家の花、野の
花を束にして売っ
たりしていました。
これも子どもの働
きのひとつだった
のでしよう。

11月のえびす講
も賑やかでした。
我が家ではこの時
に手袋・足袋など
の防寒具を買って
もらうのが常でし
た。これで一冬過
ごす。切れたりし
ても繕うだけで補
充はなし。近在の
農家の人も、秋の
収穫も済んで小金



夜空に映える大スターマイン（昭和30年）

の入る時だったのでしよう。
町はとても賑やかでした。夜
には花火が上がリ、事前に
「尺玉〇〇商店提供」のお知
らせが出て、それを見ながら
寒い中、戸を開けて家の中
見たりしました。

その頃はバスはもちろ
ん、自家用車もなかった
ので、家の前の道を石
峠・藤塚の人たちが通っ
て行きました。舗装もな
く一度雨が降ると石ころ
だらけになる道でした。

現在の医療センターの
所に中学校があり、その
校庭で町民運動会も行わ
れました。その後、五区
（荒町・八幡町・紺屋
町・松井・軽石）の運動
会が坂の上小学校の校庭
で行われ、区ごとに競っ
て盛り上がり楽しいもの



小諸西中学校の大講堂（昭和35年頃）

でした。今考えるとテレビな
ど無い時代で、それゆえに皆
で集まって一緒に楽しむとい
う風習があったのだと思いま
す。
今車社会になり、経済圏も
広くなり、商都は死語にな
りつつあります。しかし、こ
の頃周辺地域の荒町などに若
い人たちが新感覚の店を出す
ようになり、小諸の町も変化
を見せ始めています。
昔の小諸商人の心を活かし
ながら新しい息吹が入り、活
気ある町となることを期待し
ています。

※写真は、小諸商工会議所創立100周年記念「気風、脈々と」より引用

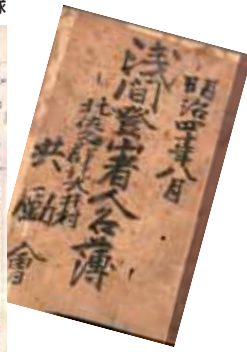
みんなの宝物



小諸市古文書調査室

「浅間山登山者人名簿」

(柏木村小在家文書)



▲明治40年登山者人名簿

励会規約」第一条によると目的は、「登山者の便を謀り物品を販売し又は不時の事変に際し之が救護の任に当る」とあります。具体的には、酒・菓子・缶詰・絵はがき等の販売をし、要望に応じて寝具や飲食の提供、天変地異の際は応急救護を行うとしています。さらに鉱泉の利用も規約にうたっています。

▼小諸小学校集団登山の記録



古文書調査室では、市内の方や小諸市出身の方などから提供された史資料の整理を行っています。江戸時代の古文書が中心ですが、明治以降の資料も多くあります。

今回紹介するのは、浅間山登山者のために北大井村で組織された共励会の資料です。明治41年(1908)の「共

共励会の事務所は北大井村にありましたが、出張所を湯の平におきました。そこには郵便局も設置しました。明治42年の開局式のとときの長野郵便局長や北佐久郡長などの祝辞もあります。

写真は登山者名簿です。明治40年、41年分3冊が残されています。そこには、県内外の学校や一般の登山者の記名があります。鹿見島や岡山、名古屋など全国各地から登山に来ています。

なかには東京府立第三中学校の生徒だった芥川龍之介と友人の西川英次郎の名もあります。2人の最初の旅行だっ

たということ、山梨県の昇仙峡から小諸に出て、浅間山に登山をし追分に行ったと後に西川は回想しています。

地元では、小諸尋常高等小學校の集団登山や職員の浅間山研究会の人たちの名もあります。当時の佐藤寅太郎校長が浅間山の総合研究を行うため職員による研究会を組織しました。実地踏査をし、研究成果として浅間山模型の製作や山誌『浅間山』という本の出版をしました。

ここに紹介した資料の他にも共励会について多くの記録があります。今後さらに詳しく研究を進めたいと思います。

【問い合わせ先】
小諸市古文書調査室
☎0267-22-0913

小諸高濱虚子記念館

「虚子の散歩道」

昭和19年、高濱虚子は家族と与良町へ疎開しました。与良町では、小在家所有の8畳と6畳との2間の家で生活を

しました。この家は、高濱虚子記念館の隣に今も残っています。家の周りには小諸の自然が広がり、人々の生活の営みがありました。そして、時折噴火する浅間山、蓼科山に連なる八ヶ岳連峰、さらに遠く北アルプスを望むことができました。高濱虚子は家の周りをよく散歩し、たくさんの俳句を残しています。

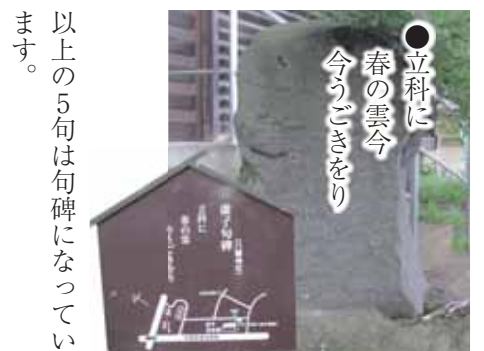


●秋晴の浅間仰ぎで主客あり

●人々に更に紫苑に名残あり

●柴を負ひそれにしめじの籠をさげ

●風花に山家住まひも
早春



●立科に春の雲今今うごきをり

高濱虚子が好んで歩いた散歩道(虚子記念館周辺)は「虚子の散歩道」と呼ばれ、現在も疎開当時の田園風景が数多く残っています。また、いくつもの句碑を見ながら当時の様子を偲ぶことができます。毎年、俳句愛好家の皆さんが、この散歩道を歩き、俳句を楽しんでいます。

高濱虚子記念館においての際には、「虚子の散歩道」へも足をのびしてみてください。

【開館時間】
9:00~17:00
【休館日】
水曜日
(祝祭日に当たる場合は木曜日)
※12~3月は冬期休館
【問い合わせ先】
小諸高濱虚子記念館
☎0267-26-3010
※冬期休館中は
小諸市役所文化財・生涯学習課
☎0267-22-1700

今 支館・分館では

『走るな！歩け！』
元日マラソン
— 大久保分館 —

令和4年1月1日。ニューイヤー駅伝が、群馬県前橋市で午前9時15分にスタートしました。が、それより1時間15分早い、午前8時に、快晴、外気温マイナス6℃の中、大久保分館の元日マラソンが開催されました。約40年続いている伝統ある行事で、令和2年、3年は中止となり3年ぶりの開催でした。

例年は、公民館広場から布引観音登り口までの往復ですが、今年は布引トンネル附近が道路工事中ということもあり、区内を周る1・5kmのコースです。

年末寒波の影響で降った雪が凍って、まだ残っている中、親子で、兄弟姉妹で、友達同士で続々と集まってきました。参加者30人。下は保育園年少さんから上は40代後半の皆さんです。

依田好男分館長の「道も凍っていて滑りやすくなっています。



るので、走らないで歩いてください。とにかく無事に帰ってきてください。」という挨拶の後、参加者それぞれ簡単に準備体操をし、密にならないようにバラバラと歩き始めました。

小さな女の子が早速滑り、父親に脇を抱えられ尻もちをつかずに済むという場面もありました。

所々に立つ公民館役員に見守られ、時々区民の方の声援を受け、凍っているところは歩き、乾いているところは走り、坂道ではハアハア言い、一番にゴールした親子は1・5kmを7分程で走り終えました。

15分程で、参加者全員無事

に走り終え、記念撮影をして、参加賞の図書券とみかんをいただき解散しました。家でこれからお雑煮を食べる人、家族で布引観音まで初詣に歩く人など、それぞれの元日を過ごすようです。

私もマラソン開始前に時間があったので、大久保神社で初詣を済ませ清々しい気持ちで取材ができました。大久保分館の役員の皆さん参加者の皆さん、取材に心よく応じてくださりありがとうございました。

編集委員 依田 和子

文化センター施設・備品受付開始日

- 【公民館・こもろ女性の家】(貸出備品含む)
令和4年5月利用 予約3月1日(火)
- 【乙女湖体育館】
令和4年9月利用 予約3月1日(火)
- 【文化会館】
令和5年3月利用 予約3月1日(火)

五行歌

こもろ五行歌の会

● 交代した
柳澤 茂美
女性リハビリ士に
ほめられて
明日が
明るくなる

● まだかまだかと
田沼 邦夫
頂上を見つめてしま
希望を抱かせる
平尾富士からの
初日の出

● 野沢菜漬けの極みは
大池 佳子
べっ甲色と
絶妙な酸味
家族や知人にも分け
今年も五〇キロ完食

● 風が吹き
倉本 妙子
木の葉が騒ぐ
一本でも
森を作る
古木

● 足腰も腕の力も弱った
塩崎 淑子
米作りを止める
さわやかな秋風の中の
決断
夫 人生の一区切り

● 家事をしながら
柏木 博美
買い物しながら
いつも独り言
マスクに隠れ
誰も知らない

● 風が吹き
倉本 妙子
木の葉が騒ぐ
一本でも
森を作る
古木